

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2018年度（前期）指定公募  
「在宅医療推進のための学会等への共催」完了報告書

第15回日本循環器看護学会学術集会  
トランジションを支える ―変わりゆく社会に求められる循環器看護―

団体名：第15回日本循環器看護学会

申請者：簗持知恵子

提出年月日：2019年2月8日

## 報告書

### 1. 開催概要

【開催日時】2018年10月27日（土）～2018年10月28日（日）

【開催場所】大阪国際交流センター：〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6

【参加者数】1385名

第15回日本循環器看護学会学術集会のプログラムは特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、交流集会、他学会との共同企画、口演、ポスター発表などであったが、在宅医療に関わるプログラムは以下のとおりであり、助成による特別講演（※印）は続くセッションの基盤となる内容となった。

※特別講演1：トランジションとケアコーディネーション：看護の役割

講師 オレゴン保健科学大学 和泉成子先生

特別講演1を受け、下記のセッションにて、病院－在宅の移行や在宅医療を支える病院、診療所の医師、看護師、訪問看護師、及び地域包括ケアに関する研究者などの演者によるセッションを設定した。また、市民公開講座では市民の病いや人生の移行に関する講話を市民の啓発として実施した。

シンポジウム1：循環器領域における緩和ケアとチーム医療

シンポジウム2：ライフステージの移行を支える循環器ケア

シンポジウム3：変わりゆく社会を支える循環器看護への期待

パネルディスカッション1：心臓移植の現状とトランジショナルケア

パネルディスカッション2：脳血管疾患をもつ患者へのトランジショナルケア市民公開講座：生老病死との向き合い方：法相宗大本山薬師寺僧侶－大谷徹瑩

#### 【開催目的】

- ・地域包括ケアなど対象の住む地域における在宅医療が推進される中、その鍵は急性期から回復期、慢性期、終末期までの経過や回復過程に応じた療養法や療養の場のスムーズな移行を支えるというケアが重要となり、講演では患者へのトランジショナルケアの理解深める。
- ・循環器看護におけるトランジショナルケアとそのために期待される看護の役割機能であるケアコーディネーションの基盤となる概念や理論的知識を提供し、循環器疾患患者が住み慣れた地域で生活するための医療の在り方や看護の役割を捉えなおす機会とする。
- ・高齢化に伴い心不全パンデミックが予測される我が国では、心不全を含む非がん患者の積極的治療から緩和ケアへの移行は喫緊の課題であり、移植医療も含めて課題やその解決の方向性を臨床側、在宅側双方が会して検討するシンポジウムの前提となる知見を提供する。

## 2. 学会終了後の効果

本財団助成による講演では、米国の医療における心疾患をはじめとする慢性疾患の管理の状況、慢性疾患を持つ患者の療養の課題についても提示された。我が国においても同様に、高度な医療が追求され、医療費の増加、複数の診療科における縦割りの医療の中で、医療者主導の医療の提供がなされ、疾患や治療に伴う教育などが行われてきた。その結果、心不全患者など慢性的な機能障害を抱える患者自身のセルフマネジメントに支障をきたし、再入院を繰り返す状況になっている。和泉成子先生による講演では、患者の生活する地域において、患者の導線、その個々の生活に応じたケアのマネジメント、そしてケアコーディネーションの概念を提示され、その重要性が理解できた。そしてそのためには、患者の生活、病気や治療、様々な地域の資源と医療を十分に理解した上で、患者に療養への参加を促し、医療・福祉などのチームに働きかけ、患者と人的・物的資源をつなぐ看護師の役割が重要であることが実感できた。まさにチーム医療を促進する看護の調整機能の発揮が今後の患者の移行を支える医療の鍵となると考えさせられた講演となった。

これまでの医療は施設型医療、在宅医療と別々の場で、また積極的な治療と緩和医療もステージごとにその実際や課題が論じられてきた。しかしある一時点ではなく、トランジションという観点から、療養の場や発症から死までの過程を展望し、病む人の治療やケア、生き方を支える新たなケア方法やシステムを構築するきっかけとすることができたと考える。

病院など施設内における医療者と在宅医療に関わる診療所や訪問看護ステーションの医療者が会して現状や課題、今後のケアについて、トランジションの観点から検討したことで、現実的な協働のあり方や課題も明らかに出来た。

市民公開講座においても、生や病をプロセスとして捉える機会を提供できた。当事者側の医療の受け方や医療・ケアの決定に関する意識の啓発につながることを期待したい。

## 3. 感想

学術集会への企業の共催が難しくなっている医療関係、特に看護系の学会におきまして、特に学術集会は天候等にも左右され、参加人数が大きく変動する昨今、本助成金は学術集会を開催・運営する者にとって大変心強く、助けになると思いました。この度の学術集会は盛会に終了することができ、本助成金による講演を基盤に、医療におけるトランジションを議論する実り多き学術集会になりましたこと心より感謝申し上げます。

(公益財団法人 在宅医療助成 勇美財団の助成による報告書)

## トランジションとケアコーディネーション：看護の役割

和泉成子

オレゴン健康科学大学 (Oregon Health & Science University)

共催：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

循環器疾患を含む慢性疾患の多くは悪化と寛解を繰り返すことから、病院における急性期治療、退院後の回復期・慢性期の疾患管理、そして終末期ケアへの準備を支援する継続的なケアモデルが必要とされている。また循環器疾患は生活習慣と深く関与しており、疾患に対する医学的治療だけではなく、生活習慣や健康行動の変容、患者あるいは介護者による主体的なケアへの参加を支援する包括的なケアモデルが必要である。既存の急性期病院を主体に治療を行う医療モデルでは、このような退院後の長期にわたる疾患管理や複雑な生活環境や行動要因に応じたケアを提供することは難しい。循環器疾患が死因の上位にあり、医療費の大半を占める米国では、これらの点を鑑みて急性期医療モデルから慢性疾患管理のための包括的ケアモデルへの移行が起りつつある。そのなかで、医学的治療に加え心理・社会的要因を考慮した患者中心の全人的ケアを実現するためのケアコーディネーションが注目を集めている。ケアコーディネーターは看護師であることが多く、患者のかかりつけ医あるいは病院所属でありながら、患者の療養の場の移行に沿って医療施設を超えたケアの調整に関与する。その役割の中には退院後在宅におけるセルフケアの支援とそれに必要なサービスの手配、患者のセルフケアを支援するコーチング、その患者のケアに関与する医療者間のコミュニケーション支援と調整などが含まれる。ケアコーディネーターの役割りはまだ新しく十分には確立されていないが、疾患だけではなく患者の心理社会的側面も考慮しながら患者のニーズに応じた包括的で継続的なケアを提供するという視点は看護の理念と明らかに重複することから、看護師のケアコーディネーターとしての活躍が期待されている。講演の中では米国におけるケアコーディネーターの役割を例にしながら、日本におけるケアトランジションを支援する看護の役割について検討する。